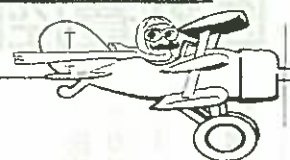


# 経営者のための生命保険講座 第45回

生命保険活用術

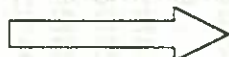
金融商品としての生命保険



金融商品として一般的なものは、銀行商品、証券会社商品そして保険商品などがあります。今回は、保険、特に生命保険の金融商品としての特徴を見てみましょう。

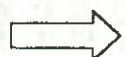
## <1> 生命保険の特徴とは、ナニ？

生命保険の特徴として  
**保険事故発生時の保障機能**  
(保険事故には、死亡、生存、入院等があります)



他の金融商品には、見られない大きな特徴です。

必要なときに現金化が可能な**積立機能**



満期、解約、減額、契約者貸付などによって現金化ができます。

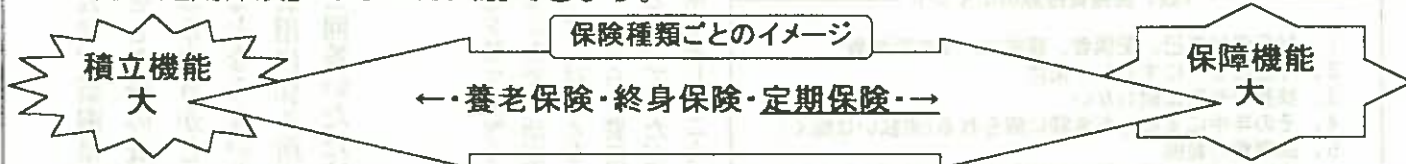
の2つの機能を持っています。



**生命保険には、金融商品として多様性があります！！**

## <2> 具体的な生命保険のイメージは？

前回ご紹介した「終身保険」、満期時に保険金を受け取れる「養老保険」、死亡保障機能に特化した「定期保険」の3つに大別できます。



そして、法人にとっての重要な保険料経理処理は、概ね「積立＝資産計上」、「保障＝損金算入」と考えることができます。  
(\* 法人税法上、終身保険は全額資産計上となります。)



**保障重視の保険は、支払保険料の損金算入が可能！！**

## <3> 金融商品としての位置付け

企業の事業活動の安定化を図るためには、経営陣に対する保障はかせません。しかし、一歩進んで資金繰りの安定化を図るためにも、生命保険は活用できるのです。

銀行、証券会社の金融商品は、支払ったファンドを運用することで、その成果＝利息相当部分を期待します。積立商品は、法人税法上、「全額資産計上」として扱われます。

一方、生命保険とりわけ「定期」性商品では、<2>にあるように保障として考えられ「損金算入」が認められます。定期性の保険商品であっても、生命保険の特性上かなりの積立効果が見られるのですが、これを「損金算入」とできるのは、生命保険ならではの特徴といえるでしょう。定期保険も、保険期間期間設定の長期のものであれば、そして逓増性のものであれば、保険期間中の解約や減額による返戻金は、かなりの割合で発生します。高返戻率の商品であれば、全額損金算入できるタイプで、払込8割程度の返戻金があります。定期保険だけでなく、その他の(たとえば「ガン保険」など)保険でも同様の効果を得ることができます。

企業体力の強い時期に、社内留保金を含み資産として形成するには適切な手段といえるでしょう。



**経営の安定化(不測の事態に対応)に生命保険を活用しましょう！**

今回は、法人税務に関わる生命保険の特徴を簡単に取り上げてみました。企業経営戦略上、生命保険活用はきわめて有効な手段となりえます。具体的なご相談に応じますので、お気軽にお声をかけてみてください。



担当 渋木 洋子